営農タイムリー！

農業技術情報

2023年12月25日発行

低温及び積雪による被害防止の技術対策

京都府農林水産技術センター農林センターより、
農業技術情報（第2号）が発表されました。　（抜粋）

大阪管区気象台発表の「低温と大雪に関する早期天候情報（近畿地方）」(令和5年12月14日)によると、冬型の気圧配置の強まりにより寒気の影響を受けやすくなるため、気温は20日ころからかなり低くなり、日本海側では降雪量がかなり多くなる可能性があります。また、年末以降も突然の低温や大雪に見舞われる可能性があります。

ついては低温や大雪による農作物やハウスなどの施設の被害を防ぐため、次の技術対策を徹底してください。

1．ハウス園芸品目（野菜・花）

パイプハウスの雪害は、重く湿った雪が降ったときに発生しやすくなります。**降雪前にハウス 内外の点検と備えを行うとともに、積雪予報の情報収集に努め、雪が降り始めてからの対応を素早く行う**。

（1）点検・補強

① ハウスの屋根中央部が陥没しないように、**補強用の支柱をできるだけ細かな間隔で立てる**。支柱には、鉄パイプのほか、たわみが少ない間伐材や竹も利用できる。間伐材等を利用する場合は、支柱の先端がずれないように少し切れ込みを入れ、布等で覆いビニール等の被覆資材を破らないようにする。また、支柱が積雪の重みで土に沈まないように、ブロックなどを敷く。

② ハウス内に**直管で筋交いを設置**し、ハウスの横倒れを防ぐ。既設の筋交いは台風等で緩んでいることがあるため、きっちりと固定されているか点検を行う。

③ ビニールがたるんでいると屋根に積もった雪が滑り落ちにくくなるため、ハウスバンドの緩みを点検し、**きっちりと張りなおす**。また、ビニールが破れていると、室温が低下して雪が積もりやすくなるため、補修する。

④ パイプハウスに外張りで被覆資材（寒冷紗等）を設置している場合、雪が落ちにくくなるため、**被覆資材を取り外す**。

⑤ 暖房機が設置されている場合は、燃料の残量を確認し、できる限り満タンにしておく。

⑥ 当面、作物を栽培する予定がないハウスでは、降雪前にビニールを外す。フルオープンハウスで天井の開放が可能な場合は、降雪前に開放する。

⑦ 多量の積雪が予想され、通常の除雪作業ではハウス倒壊の危険性が高いときは、**緊急的にビニールを切断することを検討する**。

（2）降雪時の対策

① 雪が降り始めたときは、**ハウスの屋根の雪を早めに滑落させる**。

② 暖房機が設置されている場合は、内部被覆を解放してハウス内を加温し、屋根付近 の温度を高め、雪を滑落させる。暖房機がない場合は、被覆資材や開口部の点検を十分に行い、入り口やサイドに内張カーテンを設置して、ハウスを密閉し、**寒気がハウス内に入らないようにする**。

③ 雪が屋根に積もったすぐ後は、倒壊の危険があるため、ハウス内に立ち入らない。

④ ハウス側面に滑落した雪が多くなると、屋根の雪が落ちなくなるため、**側面の雪は次回の降雪に備えて早めに除去する。**

⑤ 単独で行わず、二人以上で対処する。

（3）低温障害対策

施設栽培で、暖房機が設置されている場合は、加温して凍霜害の回避、軽減を図る。葉菜類では、ベタロン、パオパオ等の資材を直掛けし、凍霜害を防止する。

2. 果樹

① 棚仕立ての樹種（ブドウ、ナシ、キウイフルーツ等）では、棚が壊れるなど思わぬ被害を受けることがある。降雪前に荒せん定をするとともに、果樹棚を点検し、補強や修繕を行う。

② 樹冠や枝条、棚上に積もった雪は早めに払い落す。

③ 落葉果樹では、荒せん定を行い、枝数を少なくする。

④ 根雪になる地域では、竹等を利用して、棚を支える支柱をたくさん立てて、被害を軽減する。棚のない樹種では、主だった枝（主枝、亜主枝等）に直接支柱を立てる。

⑤ 防鳥網等の被覆物は必ず降雪前に取り除く。

⑥ 雪の重みで枝が折れた場合は、できるだけ早くせん定し、切除面には癒合剤を塗布する。